

1 研究主題

自らの学びを自覚し、考えを深めていく子どもの育成（2年次）
～対話を通して学び合う授業づくり～

2 研究主題設定の理由

本校では、昨年度から「自らの学びを自覚し、考えを深めていく子どもの育成～対話を通して学び合う授業づくり～」を主題とし、「一人一人に必要感のある対話的な学びを取り入れた授業づくり」と「学びの習得を自覚できる手立ての工夫」を重点として研究を進めてきた。重点1の「一人一人に必要感のある対話的な学びを取り入れた授業づくり」では、交流活動の工夫や表現方法の指導、多様な対話的学びの工夫等を取り入れ、重点2の「学びの習得を自覚できる手立ての工夫」では、自分ごととなる学習内容や考えの明確化、学びの習得や変容の自覚等を意図した授業実践を積み重ねてきた。

授業の実際では、重点1の内容において、ICTを活用して自分の考えを表して共有し合うことや友達と意見交換できる場を設定することなどの手立てを工夫した。その結果、子ども同士が直接話したり聞いたりすること、タブレットで考えを共有して多様な考えにじっくり触れることを通して、自分の考えを見直したり、考えを広げたり、理解を深めたりすることができた。また、全体の場での教師の揺さぶりや切り返し、意図的な指名等のコーディネーターが子ども同士の対話を引き出し、対話的な学びの充実にもつながった。

重点2の内容では、導入において、前時の課題との違いに目を向けたり、自分とつながる課題を提示したりすること、自己選択や自己決定をする機会を学習の中に意図的に取り入れることなどの手立てを工夫した。その結果、主体的に学ぶ意欲を高め、自分の考えを友達に伝えたい、友達の考えを聞きたいという意欲の高まりが見られた。また、お互いの学びを共有するために、どの程度達成できたか自己評価すること、どこまで分かったか、どのような方法で考えたかを振り返る視点を与えることが必要であることが分かった。学びの習得を自覚する上でも学習の足跡を板書で残していくことも継続したい。

このような実践を通して、自らの学びを自覚しながら考えを深めていく姿から研究の方向性のよさや実践内容の手応えを感じ取ることができた。さらに学び合いの幅を広げていくためには、子どもの実態を十分に把握し、子ども主体の授業構成や子ども同士での交流活動の工夫、友達と協働して解決していくという選択の幅を広げること等の検討が更に必要になってくると考える。振り返りでは、自己の変容を客観的に自覚し学習意欲の向上につなげることができるように、視点の与え方やその生かし方についても今後検討していく必要があると考える。

県学習状況調査の質問紙の結果においては、話し合う活動への取り組み方の向上が見られ、学んだことを次の学習につなげることに関する項目は概ね良好であった。「ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の項目についても肯定的な回答が増えているという結果であり、昨年度の授業実践の成果と捉えることができる。

以上のことから、今年度も、一人一人に即した必要感のある対話的な学びを取り入れた授業づくりと、学習のめあてや課題を自分ごととして捉え、学びの習得を自覚できる手立てを工夫することを重点として研究を進めていきたい。また、学びを支える基盤として言語環境の充実にも努めていきたい。

3 育てたい子どもの姿

思いや考えを伝え合い、自らの学びを広げ、深めようとする子ども

4 研究の仮説

一人一人に必要感のある対話的な学びを取り入れた授業づくりをすることで、自らの学びを自覚し、考えを深めようとする子どもが育つのではないか。

5 研究の重点と内容

(1) 一人一人に必要感のある対話的な学びを取り入れた授業づくり

○目的を明確にした「広げる・深める」での交流活動の工夫

○理由や根拠を明確にするための表現方法の指導（ICTの活用、資料の提示、図や具体物の利用など）

○対話的な学びを多様に捉えた学習の工夫

(2) 学びの習得を自覚できる手立ての工夫

○自分ごととして捉え、解決の見通しがもてる課題、学習活動の設定

○自分の考えを明確にする場、方法の工夫（文章化する、教える、発表するなど）

○学びの習得や変容を自覚できる「振り返り」の工夫（視点の提示、選択等）

6 学びを支える基盤（共通実践事項）

○学びを支える学習集団づくり

・互いに話を聞き合える雰囲気づくりの工夫と人間関係の育成

・多様な意見を受け止め、友達の発表に反応することへの意識付け

○言語環境の充実

・書く・伝える活動の場の工夫

・「飯田川の子ども 聞き方・話し方」の活用

・ICTの日常的な活用

○基礎的・基本的な知識及び技能の定着

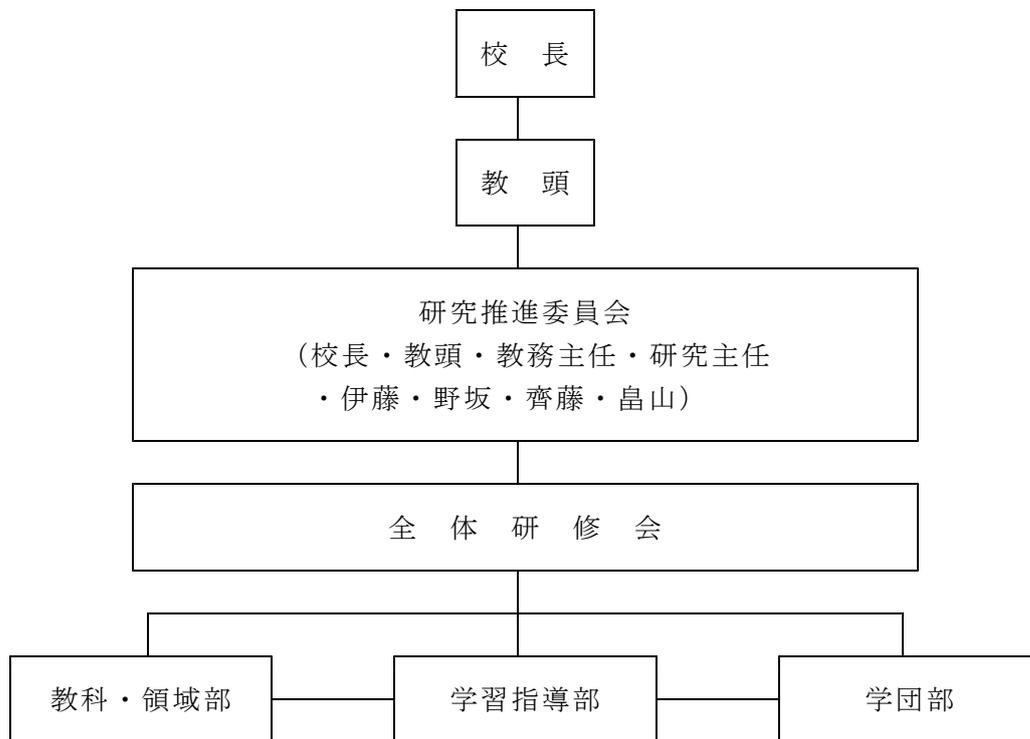
・「はげみ学習」の継続と充実

・家庭学習への取組

・チャレンジテスト（漢字・計算）の実施

7 研究の進め方

(1) 研究の組織



- 研究推進委員会…研究の方向づけ、研究内容の検討、研究全体の企画・運営など
- 全体研修会…研究計画の検討、共通理解、授業研究会、研修報告など

(2) 研究推進の方法

- ①授業研究の充実
 - ・視点を明確にした授業提示
 - ・研究協議会（成果の確認と授業改善の方策、付箋紙を用いたワークショップ型）
- ②全体研修会の充実
- ③年間研修計画のPDCAサイクルでの見直し
 - ・短いサイクルでの見直しと活用
- ④学習アンケートの実施（6月、2月）と分析・実態把握及び活用
- ⑤小中連携事業による中学校区内小中学校の相互授業参観及び研究会参加
- ⑥先進校視察及び伝達講習

8 研究の全体構想

【学校教育目標】
よりよく生きる ～夢 笑顔 学ぶ瞳～

【めざす子どもの姿】
夢～夢に向かって努力する子ども
笑顔～思いやりの心もち、明るい挨拶ができる子ども
学ぶ瞳～自分の考えもち、伝え合うことができる子ども

【研究主題】
自らの学びを自覚し、考えを深めていく子どもの育成（2年次）
～対話を通して学び合う授業づくり～

【育てたい子どもの姿】
思いや考えを伝え合い、自らの学びを広げ、深めようとする子ども

【研究の仮説】
一人一人に必要感のある対話的な学びを取り入れた授業づくりをすることで、自らの学びを自覚し、考えを深めようとする子どもが育つのではないかと。

【研究の重点と内容】	
<p>(1) 一人一人に必要感のある対話的な学びを取り入れた授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none">○目的を明確にした「広げる・深める」での交流活動の工夫○理由や根拠を明確にするための表現方法の指導（ICTの活用、資料の提示、図や具体物の利用など）○対話的な学びを多様に捉えた学習の工夫	<p>(2) 学びの習得を自覚できる手立ての工夫</p> <ul style="list-style-type: none">○自分ごととして捉え、解決の見通しがもてる課題、学習活動の設定○自分の考えを明確にする場、方法の工夫（文章化する、教える、発表するなど）○学びの習得や変容を自覚できる「振り返り」の工夫（視点の提示、選択等）

【学びを支える基盤（共通実践事項）】

- 学びを支える学習集団づくり
- 言語環境の充実
- 基礎的・基本的な知識及び技能の定着

9 年間研修計画

月		研 修・授 業 研 究 会 等
4	計 画 ・ 立 案	研究推進委員会 全体研修会①②… 今年度の研究についての共通理解 年間計画の検討・組織づくり 全国学力・学習状況調査（4/17、25）実施
5		研究計画等の共通理解
6	実 践 ・ 検 証	授業研究会【校内（音楽科）】事前検討会（中学団）
7 ・ 8		授業研究会【校内（音楽科）】（中学団） 全体研修会③… 出張報告、実践途中経過報告
9 ・ 10		中央教育事務所長訪問（9/18） 授業研究会【教科等（音楽科）】事前検討会（高学団） 授業研究会【教科等（音楽科）】（高学団）（9/ ）
11 ・ 12		授業研究会【校内（道徳科）】事前検討会（低学団） 授業研究会【校内（道徳科）】（低学団） 県学習状況調査（12/3） 学習状況調査結果分析、考察
1		県学習状況調査の結果分析、考察を受けての課題への取組 研究推進委員会 授業力向上推進協議会（1/ ）
2	ま と め	全体研修会④… 今年度の反省と評価 来年度の研究の方向について
3		研究推進委員会

